

令和 6 年度

事業報告書

公益財団法人 札幌交響楽団

事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を一般会計において次のように行った。

2024年度のオーケストラによる公演

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員20名、理事20名、監事2名、事務局員15名（5ページ参照）

2. 交響楽団の編成

名誉音楽監督、友情指揮者、首席客演指揮者、正指揮者 各1名、楽団員73名

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパースネルマネージャー 計5名（6ページ参照）

（2024年3月末日現在）

3. 名誉音楽監督、友情指揮者、首席客演指揮者、正指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

名誉音楽監督 尾高忠明	出演回数	4回、練習日数	5日
友情指揮者 広上淳一	出演回数	12回、練習日数	9.5日
首席客演指揮者 下野竜也	出演回数	4回、練習日数	6日
正指揮者 川瀬賢太郎	出演回数	20回、練習日数	18日

交響楽団としての出演回数は合計118回（2023年度は114回）

これらの練習日数は合計119日（2023年度は112日）

この他小編成による教育や福祉関係の活動38回（2023年度は33回）

なお交響楽団として移動日等も含めての稼働日数は236日（オーディション2日を含む）

（2023年度は229日オーディション2日を含む）

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演 計40公演（2023年度は42公演）

【定期演奏会】16公演を実施（2023年度と同数）

2024年4月から2025年2月までに1プログラムにつき2日ずつ計16公演を開催した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。首席指揮者が不在であった2024年度は名誉音楽監督尾高が2回4公演、友情指揮者広上が1回2公演、正指揮者川瀬が1回2公演の指揮をしたほか、次期首席指揮者のグランディが1回2公演、2024年12月で引退を表明した井上道義が1回2公演、前首席指揮者バーメルトが1回2公演、ドイツ音楽の権威である上岡敏之が1回2公演に出演した。なお尾高は当初、1回2公演の出演だったが、6月定

期演奏会に出演予定だった世界的指揮者デュトワが急遽体調不良で登壇できなくなったため、尾高が代りに出演、2回、4公演となった。10月定期に登場した上岡は札幌初出演であったが、コロナ後の成長が著しい札幌合唱団もその力を発揮し、聴衆とともに上岡自身も再共演を期待するなど満足する公演になった。

【hitaru シリーズ定期演奏会】4公演（2023年度と同数）

2024年4月から2025年3月までに hitaru での定期演奏会は4公演を開催した。下野の首席客演指揮者お披露目公演のほか、広上、スダーン、川瀬が登壇、邦人作曲家による作品とムソルグスキーの「展覧会の絵」、スメタナの「わが祖国」全曲、グリーグの「ペール・ギュント」、シューマンの交響曲第3番「ライン」を組み合わせた。

ソリストとしてはショパン国際ピアノコンクールで絶賛を浴びたゲヴォルギヤン、知名度の高い実力派チェリスト宮田大の登場があった。なお2024年度からは各公演前に出演者によるプレトークを行い、うち2公演では作曲家本人によるトークを行った。

【名曲コンサート】4公演を実施（2023年度と同数）

広上、元札幌ミュージックアドバイザー兼首席指揮者の秋山、川瀬、下野が1公演ずつ指揮をした。人気の高い「ドイツ3B」「鉄道」「ローマ三部作」「はるかなる銀河を：ジュピターとヤマト」と、それぞれの公演のテーマを定め、色合いの異なる公演を提供。変化に富んだ選曲はクラシックファンに留まらず、年齢、客層、道外からなる幅広い聴衆を呼び込むことができた。

【特別演奏会】16公演を実施（2023年度は18公演：市内1公演、道内地方1公演の計2公演減）

○札幌市内公演（主催：札幌単独） 8公演

- | | | |
|------|---|------------|
| 1. | 札幌シンフォニック・ブラス | 5月11日 |
| 2. | hitaru でオーケストラ！～もっと知りたい2024夏
(札幌市と共催) ※ | 8月 6日 |
| 3. 4 | 札幌 読み聴かせコンサート「おばけのマールとたのしいオーケストラ(2公演) | 8月10日 |
| 5. 6 | 札幌の第9(2公演) | 12月14日、15日 |
| 7. 8 | みんなのオーケストラ in Kitara～あつまれ動物たち～(2公演)
(札幌市と共催) ※ | 12月28日 |

※札幌市共催低料金コンサート（札幌市文化芸術鑑賞促進事業）として実施した

○北海道内地方公演 7公演を実施

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1. | 鶴居公演 | 6月 2日 |
| 2. | 中富良野公演（萬田記念財団協賛） | 7月10日 |
| 3. | 伊達公演 | 7月13日 |
| 4. | 北見公演 | 8月20日 |
| 5. | 清水公演 | 8月21日 |
| 6. | 小樽公演 | 1月18日 |
| 7. | 苫小牧公演 | 3月22日 |

○東京公演 1公演を実施

2月 3日

2. 依頼公演 49公演を実施（2023年度は44公演）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35回（2023年度は30回）

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14回（2023年度は同数）

札幌市芸術文化財団、北海道新聞社、道新文化事業社、北海道電力、北洋銀行、北海道銀行、北海道公立学校教職員互助会、タナカメディカルグループ、北海道テレビ、北海道ガスをはじめ多くの団体、自治体から依頼を受けた。札幌市内では、札幌市芸術文化財団主催のバレエ「アラジン」2公演、オペラ「ドン・ジョヴァンニ」2公演と歌劇「竹取物語」1公演、北海道二期会主催のオペラ 喜歌劇「こうもり」2公演のほか、「モンスターハンター20周年記念 オーケストラコンサート」1公演、「初音ミクシンフォニー2025 10th Anniversary」2公演におけるオーケストラ・サウンドによる電子音楽の演奏など多彩な公演に出演し、来場者の盛り上がりにより新しい可能性を見出すこともできた。

（3）青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室29公演を実施（2023年度は28公演）

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15回（2023年度は14回）

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11回（2023年度は14回）

うち2公演は文化庁学校公演

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3回(文化庁学校公演)

（2023年度は開催なし）

札幌市内公演は Kitara ファーストコンサート11公演のほか高校の芸術鑑賞会としての実施、北海道内地方公演は、旭川、恵庭、登別、小樽、苫小牧、音更、帯広（2公演）、共和での道新ジュニアクラシックコンサートと釧路、余市開催の文化庁学校公演であった。北海道外公演は文化庁からの依頼により青森県弘前市、秋田県鹿角市、宮城県利府町を訪問した。

楽団員によるアンサンブル公演や楽器講習会では、楽団員が児童、生徒と音楽を通して交流を深め、技術的な指導を行った。毎年開催の札幌市中学校吹奏楽研究協議会（中吹研）のリーダー講習会では、札幌市内中学校の吹奏楽のパートリーダーに日々のトレーニング方法や、基礎的な演奏技術向上のための指導、また自らの経験・体験を通じて得た音楽の楽しさ、一つのものを作り出す達成感などを伝えた。札幌シンフォニック・ブラス、釧路定期演奏会（依頼公演）では、生徒が楽団員の事前講習を受け、演奏会に参加した。（計12回）

（4）その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

その他の広報宣伝活動

○各種媒体での広報・宣伝活動

自主公演の公演プログラムで公演情報や楽曲の解説を行ったほか、ホームページ、Facebook、X、Instagram、YouTube、TikTok など媒体の特性からターゲットを定め、札幌ならびに音楽

への理解促進を図った。hitaru シリーズ定期演奏会ではホワイトボードを使って作品にまつわる情報をイラスト付きで紹介、名曲コンサートでは読み物として「札幌 STAFF による気まぐれ通信：かぷりっちょ」を配布。様々な角度から音楽を楽しんでもらう工夫を続けている。このほか北海道新聞のコラム「奏で人」の取材に対応、放送では AIR-G' FM 北海道の「札幌 プレイヤーズファイル」に出演し、楽団員ひとりひとりの魅力を伝えることに努めた。また、雑誌「O.tone」での企画として市内レストランで演奏会との期間限定コラボメニューを展開、大通駅地下通路ではデジタルサイネージを使って演奏会の宣伝を実施した。加えて市内タクシーやホテル、観光施設の協力のもと、割引クーポン付きの年間リーフレットを設置し、観光客に対する認知向上と来場促進を図った。

その他の公演事業

クラシック演奏会に出かける機会が少ない方々に対し、こちらから出向き、札幌の存在をアピールした。

○アンサンブル（計 17 回）

企業・団体の周年記念イベントへ出向いての演奏のほか、エスコンフィールド HOKKAIDO で開催された「日韓ドリームプレイヤーズゲーム」で国歌を演奏。また札幌市との共催公演『みんなのオーケストラ in Kitara～あつまれ動物たち～』の告知コンサートを札幌青少年科学館で行った。プラネタリウムと演奏会のコラボレーションは初めての試みであったが、親和性があり、好評であった。

○支援学校等への訪問演奏（9 回）

養護学校、支援学校や児童養護施設に楽団員が出向き、コンサートに出かけることが難しい児童生徒に対し、体育館や施設内のスペースを使って演奏し、近距離ならでの生の音の迫力と音楽を楽しんでもらった。

周年特別事業会計

周年特別事業としての事業は実施しなかった。

公益財団法人札幌交響楽団 評議員、役員等及び事務局

評議員	阿部 博光	理事長	宮口 宏夫	事務局
	雨貝 尚子			事務局長 多賀 登
	出田 恵三	副理事長	田中 良治	事務局次長 庄司 寿子
	井田 重芳		箱石 文祥	
	漆原 直子			総務営業部
	長内 勲	専務理事	荒木 太郎	部長 中川 広一
	長内 直也			主任 櫻田 千恵
	越田 習司	理事	井上 健	奥山 大介
	佐藤 圭一		大槻 博	岸本 彩子
	惣田 浩		勝田 直樹	木村 奈緒
	立川 宏		金井 昭雄	坂井 紳一郎
	千田 雅子		加納 孝之	柴崎 麻里絵
	千葉 潤		阪 豊彦	吉野 早苗
	長沼 修		笹原 晶博	
	三部 安紀子		鶴井 亨	事業部
	三輪 宣彦		寺内 達郎	部長 黒田 朋子
	村山 英彦		中村 達也	主任 種池 純子
	吉田 祐樹		似鳥 昭雄	主任 田畝 敦志
	米森 正貴		東原 俊郎	伊藤 宇宙
	渡邊 多加志		前田 真子	米倉 裕太
評議員 20 名			萬田 直紀	事務局員 15 名
		村田 正敏		
監事	小寺 正史	安田 光春		
	酒井 純			
監事 2 名		理事 20 名		

(2025年3月31日現在)

札幌交響楽団 指揮者・楽団員名簿

名誉音楽監督 尾高 忠明

友情指揮者 広上 淳一

首席客演指揮者 下野 竜也

正指揮者 川瀬 賢太郎

コンサートマスター 2名

会田 莉凡 特別契約

田島 高宏 特別契約

ヴァイオリン 20名

赤間 さゆら

飯村 真理 副首席

岡部 亜希子

井上 澄子

佐藤 郁子

河邊 俊和

桐原 宗生 首席・特別契約

熊谷 勇大

小林 美和子 副首席

多賀 万純

竹中 遥加

高木 優樹

鶴野 紘之

ディハ・スクアーレ・ウ・インチェンツォ

土井 奏

中村 菜見子

橋本 幸子

三原 豊彦

山下 暁子

富田 麻衣子

ヴィオラ 8名

青木 晃一 副首席

荒木 聖子

鈴木 勇人 インスペクター

仁木 彩子

原 香奈恵

櫛本 朱音

廣狩 亮 首席・特別契約

物部 憲一

チェロ 8名

荒木 均

石川 祐支 首席・特別契約

武田 芽衣

小野木 遼

角野 友則

猿渡 輔 副首席

廣狩 理栄

横山 桂

コントラバス 6名

飯田 啓典

稲橋 賢二 副首席

大澤 敬

斎藤 正樹

下川 朗

吉田 聖也 首席

フルート 3名

川口 晃 副首席

クリス・ウォン 首席

福島 さゆり

オーボエ 3名

浅原 由香 副首席

関 美矢子 首席

宮城 完爾

クラリネット 3名

白子 正樹 副首席

三瓶 佳紀 首席

原田 侑来

ファゴット 3名

坂口 聡 首席

夏山 朋子 副首席

村上 敦

ホルン 5名

岩佐 朋彦

折笠 和樹 インスペクター

島方 晴康

土谷 瞳 副首席（海外留学中）

花澤 良平

トランペット 4名

小林 昌平

籠谷 春香 副首席

佐藤 誠

福田 善亮 首席

トロンボーン 3名

田中 徹

中野 耕太郎 副首席

山下 友輔 首席

バスドラム 1名

澤山 雄介

チューバ 1名

玉木 亮一

ティンパニ・打楽器 3名

入川 奨 首席

大垣内 英伸

大家 和樹 副首席

楽団員計 73名 うち特別契約 5名

パーソネルマネージャー

玉田 周哉

ステージアドバイザー

猪狩 光弘

スタッフ

安達 嵩博

山下 大樹

ライブラリアン

中村 大志

スタッフ計 5名

（2025年3月31日現在）

札幌交響楽団 2024年度活動報告

公益財団法人 札幌交響楽団

<https://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

オーケストラ演奏会

計118公演

■自主公演(40公演)

定期演奏会(札幌市内) 20公演

札幌市内 12公演

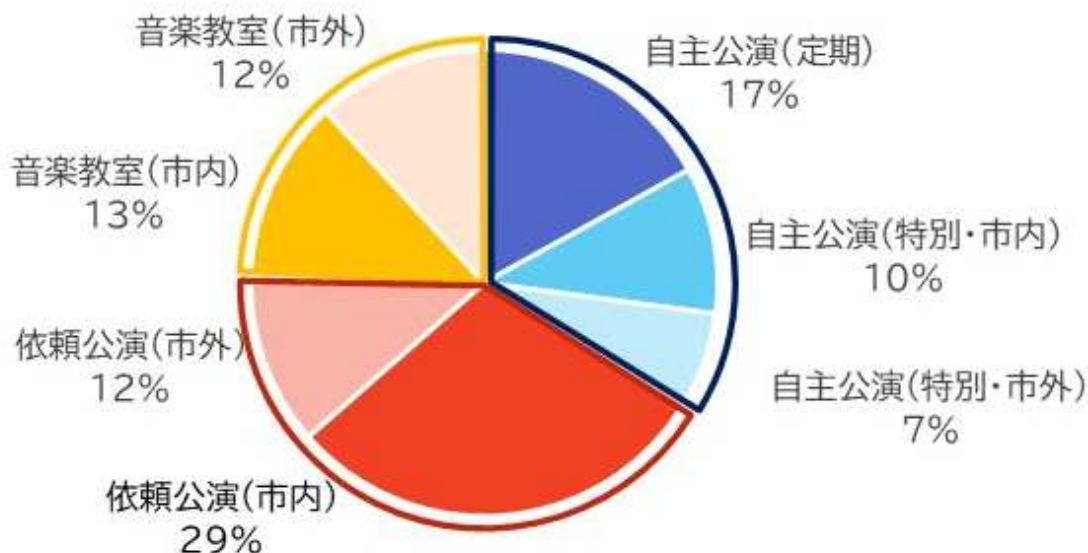
北海道内 7公演

北海道外(東京公演) 1公演

■依頼公演(49公演)

■音楽教室(29公演)

2024年度演奏会内訳



教育・地域活動、アンサンブル演奏

計38公演

総計156公演

自主公演

札幌が主催する演奏会

■ 定期演奏会

20公演

2つのシリーズで20公演を開催

定期演奏会	8プログラム	16公演
hitaruシリーズ定期演奏会	4プログラム	4公演



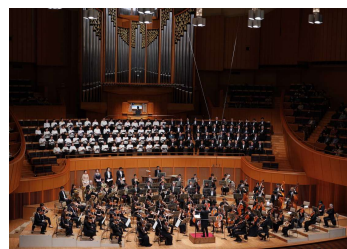
5月定期
年内で引退を宣言
した井上道義氏と
の最後の共演。
ステージ上に円形
に配置された「ノモ
スガンマ」で注目を
集めました。

■ 札幌市内公演

12公演

札幌名曲コンサート	4公演
札幌シンフォニック・ブラス	1公演
札幌読み聴かせコンサート	2公演
札幌の第9	2公演
札幌市共催・低料金コンサート	2プログラム 3公演

10月定期
指揮者上岡敏之との
初共演「テ・デウム」



読み聴かせコンサートは
前回に続きTEAM NACS
の森崎博之さんが読み
手として登場。多くの親
子と演奏を楽しみました。

■ 北海道内公演

7公演

鶴居／中富良野（萬田記念財団協賛）
伊達／北見／清水／小樽／苫小牧

札幌市共催の低料金コンサートは、気軽にオーケストラに親しみ、興味を持っていただくことを目的として開催。ホワイエでは弦楽器の重さや大きさを体験できるコーナーを展開しました。



■ 北海道外公演

1公演

東京公演2025（2月、東京・サントリーホール）



東京公演では武満徹・伊福部昭・シベリウスと、札幌が得意とする3曲を熱演。ピアニストには札幌出身の外山啓介を迎え、札幌ならではの公演を届けました。



道内公演のうち3公演（伊達、小樽、苫小牧）では楽団員がソリストを務め、札幌の魅力を伝えました。



依頼公演

企業、自治体などの依頼で行う演奏会

■ 札幌市内公演 35公演

札幌市内公演 35公演

札幌市芸術文化財団主催＜Kitara、hitaru＞ 8公演

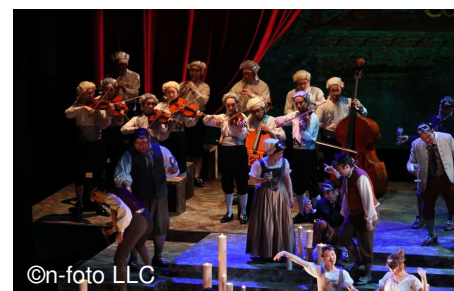
- Kitara 5月 Kitaraきがるにオーケストラ
12月 歌劇「竹取物語」、Kitaraのクリスマス
1月 Kitaraのニューイヤー
- hitaru 7月 新国立劇場バレエ団「アラジン」(2公演)
12月 hitaruオペラプロジェクト「ドン・ジョヴァンニ」(2公演)

企業・団体主催 27公演

- ・北海道二期会 教文オペラプログラム 喜歌劇「こうもり」(2公演)
- ・モンスターハンター20周年記念 オーケストラコンサート
- ・「初音ミクシンフォニー2025 10th Anniversary」(2公演) ほか



Kitaraのクリスマス(指揮:横山奏)



©n-foto LLC

hitaruオペラプロジェクト
「ドン・ジョヴァンニ」
パンダはステージ上で演奏しました。

■ 道内各地の公演 14公演

北海道新聞社、北海道電力、北海道公立学校教職員互助会やその他企業による補助と、各自治体、会場ほか関係機関の協力のもと、以下の市町で14公演が開催されました。

名寄／江別／標津／稚内／函館／苫小牧／幌延／釧路／室蘭／共和／旭川／岩見沢／栗山／帯広



↑ 江別公演(指揮:太田弦)
↓ 旭川公演(指揮:円光寺雅彦)



「ほくでんファミリーコンサート」(共和)
(指揮:辻博之)



「よつ葉アリーナ十勝」開館5周年
記念コンサート(帯広)
(指揮:佐藤俊太郎)

釧路公演(指揮:松本宗利音)では、
地元高校生と共演。
事前指導を経て、公演に臨みました。

音楽教室

青少年に音楽の楽しさを伝える演奏会

■ Kitaraファースト・コンサート

11公演

札幌市内と近郊の小学6年生を対象とした「Kitaraファースト・コンサート」全11公演を実施。

前半の5公演を友情指揮者・広上淳一が、後半の6公演を正指揮者・川瀬賢太郎が担当しました。



2004年から続く「Kitaraファースト・コンサート」歌や拍手と一緒にオーケストラを楽しみました。

■ ジュニアクラシック 13公演

北海道新聞社などの助成を受けて道内各地で開催するジュニアクラシックコンサートは8市9公演を実施しました。

旭川、恵庭、登別、小樽、苫小牧、音更、帯広(1日2公演)、共和

Kitaraを会場とした高等学校のジュニアクラシックコンサートは4公演実施しました。



演奏に楽器紹介や指揮者のトークを交え、音楽や楽器の楽しさを伝えました。

■ 文化庁主催 舞台芸術等総合支援事業

(学校巡回公演)

5公演

文化庁主催の学校巡回公演として、道内2校(釧路、余市)と道外3校(青森、秋田、宮城)を訪問しました。受け入れ学校との入念な打ち合わせのうえ、事前訪問のワークショップとオーケストラ演奏会を実施しました。



学校での公演はコンサートホールよりも子どもたちと近い距離で、オーケストラの生の音の迫力を直接伝えています。子どもたちによる指揮者体験コーナーや、コンサートマスターが指揮をする場面も。間近で見る楽器・聴く音楽に、子どもたちは興味津々でした。

教育・地域活動、 アンサンブル演奏会

● 教育への貢献 教育や子供たち、若者を音楽で支援することに取り組んでいます。

＜楽団員による指導＞

中学生を対象とした楽器講習会では、楽団員が技術的な指導を行いました。



＜楽団員による講義＞

北海道大学教養課程などで楽団員がレクチャーの講師を務めました。



＜スクールコンサート＞

道内の養護学校等を訪問し、アンサンブル演奏を行いました。



● 地域への貢献 福祉施設や街のにぎわいの中など地域の様々な場面に音楽をお届けし、人々の元気と地域の活性化に寄与する取り組みを行っています。



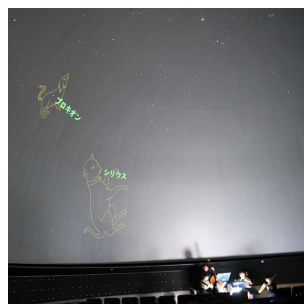
札幌駅での「JRタワー妙夢コンサート」に出演。



病院や高齢者施設などを訪問しミニコンサートを実施。会場に足を運ぶのが難しい方々に生の音楽をお届けし、喜んでいただきました。



7月、エスコンフィールドHOKKAIDOで開催された「日韓ドリームプレーヤーズゲーム」で、コンサートマスターの田島が国家独奏を務めました。



札幌市共催公演の告知コンサートとして、札幌青少年科学館のプラネタリウムにて初めて演奏をしました。

広報・宣伝活動、普及への取り組みなど

●広報・宣伝活動

エリ阿斯・グランディの2025年度首席指揮者就任に先立ち、記者発表会を実施。テレビでの報道による認知向上を図りました。また、従来の新聞やテレビ、ラジオでの情報提供に加え、YouTube、Facebook、X、Instagramなど、インターネットの積極的な活用に取り組んでいます。Facebook、Instagramでの広告配信では、これまで接点のなかった新たな客層へのアプローチに有効であることがチケットの販売実績として見えてきました。

今後も手段や内容を変えた試みを行い、効果検証をしながら効果的な広報・宣伝活動を展開していきます。



HTB北海道ニュース



STVニュース



HBCニュース



SNS広告配信



●普及活動～ロビーコンサート、動画配信



定期演奏会でのロビーコンサートに加え、YouTubeで「プレイヤーズ・トーク」や、ソリストを務める楽団員・指揮者のインタビュー動画を配信。生の声で、作品との出会いや共演者とのエピソードなどを紹介し、より音楽を身近に感じていただけるよう取り組んでいます。

●普及活動～ニューイヤーコンサート&パーティ、練習見学会（札幌会員向け）



パーティで配布したフォトカード



練習見学会の参加者に向け指揮者がトーク(9月:尾高忠明)

札幌会員の参加イベントとして、「ニューイヤーコンサート&パーティ」を開催。楽団員・指揮者との交流のきっかけとしてフォトカードを配布し、サインを集めるゲーム要素を加え、来場の皆さまにご好評いただきました。

また、定期演奏会のリハーサル時、練習見学会を2回実施しました。

次年度も会員向けのイベントの実施に引き続き積極的に取り組んでまいります。

